

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用）教科 家庭 科目 家庭総合

教科：家庭 科目：家庭総合 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～7組

使用教科書：（「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう」大修館書店）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。

【思考力、判断力、表現力等】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。

【学びに向かう力、人間性等】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 食事のちつ意味を知る。 2 現代の食生活の問題点について、生徒各自の現在の食生活を分析し、問題点を把握して、自らの食生活について多面的に考える力を養う。 3 現在の食生活の現状を理解し、どのようになればより健康的な食生活が送れるのか考える。 4 食文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の食生活との関係を知る。 5 世界のさまざまな食文化について理解し、自分の慣れ親しんだ食文化や日本の食文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。 6 食品を調理する目的を理解し、調理により食品がどのように変化するか、また同じ食品でも調理操作により味やテクスチャーが異なるものになることを理解する。 7 調理を科学的に理解する態度を養う。 8 調理を能率的におこなうための調理器具の利用のしかた、安全への配慮に目をむける。	1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかき 3 日本の食文化「WASHOKU」 15 調理のワザを身につける調理実習 調理実習①	【知識及び技能】 ●大衆食と代表的な食品について理解している。 ●食事の役割について理解している。 ●自分の食生活の問題点を理解している。 ●自分の食生活を点検し、見直すことができる。 ●日本や世界のさまざまな食文化の事例を通じて、食文化がその土地の風土の中で長年にわたって形成されたものであることを理解している。 ●日本や世界のさまざまな食文化や食卓作法などを理解して、国際交流をすることができる。 ●食文化に関心をもち、人間と食べ物とのかわりについて考えようとしている。 ●食品の調理上の性質をいかした調理法について理解している。 ●配膳や食事のマナーについて理解している。 ●調理の基礎技術を身につけて、実生活で活用し、調理することができる。 ●配膳や食事のマナーをふまえて、楽しく食事をする工夫ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ●自分の食生活や家族の食生活を分析し、改善方法について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。 ●食生活を見直す必要性について考えようとしている。 ●異文化を認め合うことや慣れ親しんだ食文化について理解することについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ●現代の食生活や食事の意義について考えている。 ●調理の技術を積極的に身につけようとしている。	○	○	○	7
1 住まいの役割や重要性を理解する。 2 住まいや住生活の変化とその要因を知ることを通して、現代の住まいや住生活について考える。 3 住文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の住生活との関係を知る。 4 気候風土により、住まいが地域によって異なる特徴をもって発展してきたことを理解する。 5 世界のさまざまな住文化について理解し、自分の慣れ親しんだ住文化や日本の住文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。 6 住まいや住生活の現状を知り、改善のための課題について考える。 7 ライフスタイルやライフステージによって住空間に対する家族の要求が異なることを理解し、住まいへの要求に合った住まいのありかたを考える。 8 生活行為と住空間とのかわりや、住空間の違いによって住まいの居住性が異なることを理解する。 9 住まいの平面図の基礎的知識を学び、要求に合った住まいであるかを平面図から読み取れるようになる。 10 快適な室内環境確保のための知識を身につけて、健康な住まいや住生活のありかたを考える。 11 すべての人にとって安全な住まいの必要性を理解し、安全に配慮した住まいのありかたを理解する。 12 自然災害や人災などさまざまなケースに応じた防災対策について知り、自分の生活にいかせるようにする。 13 住宅政策について理解する。 14 住生活を取り巻く状況について知る。 15 住まいを長持ちさせることの重要性と、住まいの寿命を延ばすにはどうしたらよいかを考える。 16 地域環境問題の解決には、一人ひとりの理解と行動が不可欠であることを自覚し、環境に配慮した住まいの設備について知り、自分の生活を見直す。 17 住生活と地域社会とのかわりについて理解し、地域の一住民として、果たす役割について考える。 18 住みよいまちづくりのためには、住民一人ひとりの意識や行動が大切であることを知り、豊かな住環境づくりに積極的にかかわる態度を養う。	1 住まいを知ろう 2 日本の住文化を知ろう 3 住む人の生活と住まい 4 心地よく暮らすために 5 安全に安心して暮らす 6 住まいを長く使う 7 住環境を見つめてみよう	【知識・技能】 ●住まいの機能について理解している。 ●現代の住まいと住まい方について理解している。 ●住まい人の暮らしの変化に応じて変化していくものであることを理解する。 ●住まいは気候風土に合わせて、材質や構造の工夫をすることで快適な空間を創造できることを理解している。 ●生活行為と住空間とのかわり、動作に必要な広さ、家具の配置や動線などについて理解している。 ●平面図が読み取れ、住空間の計画について検討できる。 ●健康に配慮した室内環境の整備について理解している。 ●健康に配慮した衛生的な住まいや室内環境の整備に必要な基礎的な技術を身につけている。 ●安全に配慮した室内環境の整備について理解している。 ●安全に配慮した室内環境の整備や住環境の整備について基礎的な技術を身につけている。 ●防災・減災に対する備えができていく。 ●住宅政策について、時代の変化と合わせて理解している。 ●住まいの寿命を延ばす意味と、それを実現する方法について理解している。 ●住宅の品質確保、メンテナンスといった住まいを管理する視点をもって、自分の住まいを見直すことができる。 ●居住環境の改善には一住民として地域社会に参加する必要があることについて理解している。 【思考・判断・表現】 ●現代日本社会の気候風土に合わせた住まいの工夫について調べたことを、まとめたり、発表したりしている。 ●日本や世界の住まいについて、調査したり、まとめたり、発表することができる。 ●健康に配慮した室内環境の整備、住まいの計画的な維持管理などについて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。 ●安全に配慮した住まいや室内環境の整備などについて、地域の状況と結びつけて考えをまとめたり、発表したりしている。 ●住まいの寿命について、諸外国の事例を調べたりして、日本の現状と比較しながら、メンテナンスの重要性について考えを深めたり、発表したりしている。 ●自然環境や社会環境と住生活の関連などについて調べたり、考えを深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ●住まいの機能、人間と住まいとのかわりについて考えようとしている。 ●住生活の文化に関心をもち、住まいの機能、人間と住まいとのかわりについて考えようとしている。 ●家族構成、ライフステージ、生活にかかわる価値観などに応じた住空間の計画について検討しようとしている。 ●健康で快適に生活するための住まいについて考えようとしている。 ●健康に影響を及ぼす室内環境要素について知ろうとしている。 ●安全に、安心して住める住環境について考えようとしている。 ●防災・減災について理解し、自分の住まいや地域の住環境を見直そうとしている。 ●住宅政策と課題について理解しようとしている。 ●住まいを長持ちさせる管理について関心をもちようとしている。 ●地球に暮らす一員として、また地域に暮らす一員として自分の生活を具体的に見直して考えようとしている。	○	○	○	7

